

概要

◆氏名・所在地

長谷川 大起 鳥取県倉吉市

◆就農年

令和6年2月

◆事業内容

雇用先の農業者の下で、スイカやメロン栽培に取り組む。



メロンの収穫作業を行う長谷川大起氏

1

就農相談までの背景

前職は叔父の経営する学習塾の管理部門を担当する会社員であった。叔父は鳥取県が好きで、頻繁に大山や米子周辺を訪れており、学習塾を共同経営者に預け、鳥取県で就農することを考え始めた。

令和5年春に琴浦町で開催された農業体験会に叔父と参加したところ、農業の魅力を感じ、自分で農業を始めたい気持ちが湧き始めた。

その後、ふるさと鳥取県定住機構主催の相談会で、「鳥取県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」の相談員と出会った。

2

相談内容

鳥取県での就農という希望はあったものの、産地と栽培品目について決まっていなかったため、鳥取県内の主要な産地と栽培品目について、それぞれどのような特徴があるのか、相談したい。

また、農業に関する知識や経験がほとんどなく、どうすれば農業を始められる技能が得られるか、研修制度や行政からの支援内容についても知りたい。

3

支援内容

●産地と栽培品目についての情報提供

支援センターが発行した、新規就農希望者向けパンフレットを元に、全国有数の産地である白ネギやスイカ等の生産実態や人材育成状況、またそれぞれの経営実態を説明した。

●農業体験と農業者との対話の機会の提供

鳥取県内で開催されるスイカ等の産地体験会、支援センターの主催する農業視察研修を紹介した。また、希望に応じて、米子市の若手ネギ農家を訪問し、農場見学や意見交換できる機会を設けた。これらを通じて、具体的な就農イメージの醸成につなげた。

●農業基礎研修の案内

農業未経験であることから、まずは農作業を行う上での基礎となる最低限の知識や技術を身に付けることが必要であった。そこで、県立農業大学校で開催されるアグリチャレンジ科（公共職業訓練）の研修受講を勧めた。

●就職先の決定

アグリチャレンジ科の受講前から、産地と栽培品目の決定を促し、まず希望品目をスイカとすることが決まった。就職先をどこにするかで最後まで迷ったが、農業大学校が設けた雇用先農業者との面談等の結果、大栄スイカ生産者への就職が決まった。



就農相談の様子



農業視察研修で説明を受ける長谷川氏（左端）

今後の意気込み

大栄スイカの産地に入って気づいたことは、皆さん農産物の品質に誇りを持ち、高品質の農産物を生産することこそが収益を確保するという意識の高さです。自分も、いいスイカを作って売っていく、その自信を持つことができるように、師匠である雇用主の技術に近づくことを目指して、頑張りたいと思います。

専属スタッフ所感

就農相談者と初めて出会ってから1年少々になりました。鳥取県の農業に関心を持っておられ、こちらの話を真剣に聞いてくださった姿勢が印象的でした。その後も県内の様々な産地にご案内でき、栽培品目選択の一助になったのであれば幸いです。

相談者は雇用就農によりスイカ栽培を担うようになりましたが、2年後には独立就農の意向とお聞きしています。継続して農業経営の発展をサポートしたいと思います。



堀江伸一氏

概要

◆氏名・所在地

堀江 伸一 島根県鹿足郡津和野町

◆研修開始年

令和5年9月

◆研修内容

農業体験プログラムや産業体験を活用し、有機農業の研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

広島県で介護の仕事に携わっていたが、以前より里山暮らしに興味があり、都市で生活することに違和感があった。また、環境問題や食に関心を持っていたことから、農業を仕事にすることを考えるようになったこともあり、子育てが一段落したタイミングで本格的に就農を検討し始めた。

移住先を検討していた中で、以前2年間生活していた島根県で「島根県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」主催の就農相談会が開催されることを知り、参加した。

2

相談内容

家庭菜園程度の知識しかないが、有機農業や自然栽培に興味があり、島根県の西部地域で野菜を中心に農業がしたい。50歳を超え、年齢的にも早く就農したいと考えているが、就農できるのか知りたい。また、移住先の候補や就農に向けた島根県独自の支援制度に関する具体的な情報が欲しい。

3

支援内容

●相談会やミニツアーでの情報提供

「しまね就農相談会」において、就農専属スタッフから就農支援策等を説明した。後日開催された「就農相談ミニツアー」において、県西部の江津市で有機農業を実践する農家を紹介し、圃場見学と意見交換を行った。

●短期農業体験の実施

支援センターの就農相談窓口を担う(公財)しまね農業振興公社が実施する短期農業体験「しまね農業体験プログラム」の受講を勧めた。就農専属スタッフと市町担当者が連携して農業体験先の選定や日程調整、体験時のサポート等を行い、島根県で就農するイメージの醸成を図った。



しまね就農相談会の様子

●関係機関との連携

農業体験プログラムを3カ所で受けてもらい、それぞれの研修状況を各市町や県農林水産振興センター、J A、(公財)ふるさと島根定住財団と情報共有し、就農に向けて連携して対応した。

●農業体験先の決定

農業体験プログラムを通じて津和野町への移住と就農を決意し、(公財)ふるさと島根定住財団の「UIターンしまね産業体験事業」を活用し、有機農業を営む先輩農家のもとで1年間の研修を実施している。



農業体験の様子

今後の意気込み

就農専属スタッフや町担当者などへの相談を通じて、研修先を紹介いただき、充実した研修を行っています。土づくりから農薬を使わない栽培方法など、自分が目指す農業を楽しみながら勉強しています。

今後は、地域の集落営農法人とも繋がり、高齢化する地域の中で農地を維持し、担い手不足の解消と地域貢献活動にも取り組んでいきたいと考えています。

専属スタッフ所感

就農に関する相談には、生活面や資金面も含め様々な内容がありますが、関係機関と連携して円滑に対応することができました。

農業体験を経て津和野町内での就農が決まっており、地域の担い手としての活躍が期待されます。

今後も引き続き支援センターとして支援を行っていきます。

概要

◆氏名・所在地

松本 洋明 岡山県和気町

◆研修開始年

令和5年11月

◆研修内容

ぶどうの栽培技術を習得するために、研修受入農家の下で年間を通じた作業体系、管理技術の習得に取り組む。



研修生の松本氏（右）と受入農家の片岡氏

1 就農相談までの背景

幼い頃より農業に興味を持っていた。一度は県外企業に就職したが、シャインマスカットを食べる機会があり、そのおいしさに衝撃を受け農業への思いが再燃した。

いろいろ調べる中で、農業は自分の仕事が直接成果に繋がるやりがいのある仕事と感じ、本格的なぶどう栽培での就農を考えるようになった。

移住の相談も含めて和気町役場にお世話になっていたが、スムーズな就農を目指すのであれば「岡山県農業経営・就農支援センター（以下、「支援センター」という。）」での相談を勧められた。

2 相談内容

「ぶどうを栽培していきたい。」と漠然と考えており、就農までの流れや方法についてネット等で情報収集していたが、**農業の知識がないため**、就農に向けての技術習得や農地取得、支援制度など、**何から始めたら良いかなど教えてほしい。**

また、**専門的な観点**から、就農事例を交えて就農までの資金計画について**具体的なアドバイスを受けたい。**

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

空き家情報やスーパーなどの生活環境については町役場が対応したが、農地や選果等に必要な納屋付き住宅の情報については就農専属スタッフや農業普及指導センターから提供した。

●研修機関等の紹介

ぶどうでの就農を目指していたので、ぶどう栽培の研修を受けられる産地のうち、実家に近いことや、同年代の県外からの新規就農者がいることなどから、和気町での就農研修を紹介した。

●関係機関との連携による取組

研修主体であるJA晴れの国岡山佐伯ぶどう部会が農業技術に関する実践的な研修を実施して、支援センターのサテライト窓口である普及指導センターも定期的に巡回し、技術面や経営面のサポートを連携して行っている。

●就農市町村の決定

令和7年10月末に就農を予定しているが、経営に必要な農地の約半分は見込みがついている。就農まで引き続き関係機関と連携し、優良農地が確保できるように支援していく。



相談対応の様子



研修でぶどうの枝管理を実施

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口で専門家に相談することで、具体的なアドバイスを受けることができました。

まだ研修中なので、今後、就農に向け具体的な経営計画などの準備をする際にも、引き続き助言・支援をお願いします。

専属スタッフ所感

農業への熱い思いが伝わってきたので、サポートする側の私たちも精一杯応援することができています。

相談者は「分からないことはすぐに対応」される方なので、周囲の支援者からも温かく見守られています。

支援センターでは、就農時に限らず、経営のステップに合わせた支援を行っていますので、是非継続してご活用ください。



新垣レイキン氏

概要

◆氏名・所在地

新垣 レイキン 広島県広島市

◆研修開始年月

令和6年4月

◆研修内容

ハウス栽培での自営就農の実現に向け、研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

2011年に来日後、製造業に携わってきたが、祖国に住む両親が農業を行っていたこともあり、農業に興味があった。勤務先を退職したことを契機に、本格的に就農を考えるようになった。

就農に向け情報収集を行っていたところ、「農業を始める.JP」のホームページを見て「広島県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を知った。

2

相談内容

農業を始めたい思いはあったものの、これまでの農業経験は、両親の手伝いや家庭菜園で栽培する程度で、農業に関する知識や技術が不十分なうえ、栽培品目も明確でない状況であった。

このような状況を解決するためには、過去の事例や技術習得の方法など、専門的な観点からの助言が有効だと考え、より具体的な就農までの方法を相談したい。

3

支援内容

●技術習得に向けた相談対応

技術習得を行うためには、①市町等が行う研修制度の活用と、②農業法人等への就職のパターンがあるが、家族構成や住環境などから相談者に合った研修制度を提案するなどの相談対応を、就農専属スタッフが行った。

●研修機関等の紹介

相談者は現在の生活環境に満足していることから、就農専属スタッフは居住地に近い研修先の情報を提供するとともに、紹介した研修先のより詳しい内容を把握できることから、広島県が実施する「就農・応援フェア」への参加を助言した。

●研修機関の決定

相談者は就農・応援フェアに参加し、居住地に近い「広島市農林水産振興センター」が実施する研修の受講を決定し、申込・審査を経て、令和6年4月から研修をスタートしている。

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携している広島市農林水産振興センターや広島市役所などの関係機関が技術習得の研修だけでなく、農地の相談などの支援を行っている。



就農相談の様子



研修の様子

今後の意気込み

支援センターへの就農相談を契機に、夢の実現に向けた第一歩を踏み出すことができました。

今後も携わっていただいた関係者の方に助けていただきながら、自ら農業を始められるよう1日も早く知識や技術を身に付けたいと考えています。

専属スタッフ所感

相談者は「農業を始めたい」との強い思いから、支援センターへの相談や就農・応援フェアへの参加など、積極的に情報収集するとともに、自ら「外国籍でも農地の貸借契約の可否を確認する」など、意欲的に取り組まれました。

将来の夢である就農を実現できるよう、困ったことなどの相談があれば関係機関と連携してフォローしていきます。



農業大学校（就農支援塾）で研修中の末永氏

概要

◆氏名・住所

末永 大介 山口県防府市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

「農業大学校（就農支援塾）」において、作物の栽培技術や農業機械操作に関する実践的な講義や研修を受けている。

1

就農相談までの背景

生家が兼業農家であったため、いつかは自分が何らかの形で農地を管理しようと考えていたところ、若い世代が新規就農者として活躍するニュースを見聞きし、自分も専業で本格的に農業を始めたいという思いが芽生えた。

しかし、自分自身の農業に関する知識や経験が少なく、就農への準備不足と不安を感じたため、「山口県農業経営・就農支援センター」に相談した。

2

相談内容

国や山口県のホームページ等で情報収集をする中、栽培技術の習得方法や栽培品目選定のポイント、自分が活用できる事業制度などについて、疑問や不安が生じていたため、就農専属スタッフに相談した。

また、農業大学校が主催する社会人研修（就農支援塾）の概要と参加手続きについて、助言を得たい。

3

支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

営農に向けたビジョンは相談者自身も描いており、計画策定に必要な情報も入手できていた。しかし、面談を通して、就農に必要な技術に不安を抱えていることが浮き彫りとなったため、就農専属スタッフから就農前の技術習得を提案した。

●研修機関等の紹介

相談者の同意の下、長門市や長門普及指導センターと情報を共有し、栽培技術研修と座学を学ぶことができる農業大学校の社会人コース（就農支援塾）の概要と参加手続きについて説明した。

●関係機関との連携による取組

農業大学校において、作物の栽培技術や農業機械操作に関する実践的な講義・研修をながら、利用可能な事業の導入を想定した経営計画などの検討と策定を進めている。

●就農市町村の決定

農業大学校での研修終了後は、長門市内で水稻やすいか等を栽培する農業法人での就業を予定している。

また、雇用就農を介して経験を積み、十分な知識と技術を得るなど、農業に対する自信がついた段階で、自営することも視野に入れている。



農作業機械による演習の様子



イチゴ施設で講義・研修を受ける様子

今後の意気込み

最初は「農業をやりたい」という思いばかりが強く、何から始めたら良いかも分かりませんでしたが、就農専属スタッフの方々に親身に相談に乗っていただき、就農へ向けての具体的な道筋がイメージできました。

独立就農が実現できるように頑張ります。

専属スタッフ所感

相談者は、自身で考えて就農イメージを描いておられ、経営計画に必要な情報も一定量準備されていましたが、栽培技術に不安を抱えておられたため、就農前の研修をご案内しました。

就農に向けた研修は始まったばかりです。就農後の定着が極めて重要ですので、今後も普及指導センターなどの関係機関を交え、フォローしていきます。



ミニトマトを収穫する原氏

概要

◆氏名・所在地

原 時人 徳島県阿波市

◆就農年

令和6年4月

◆事業内容

独立就農を目指して農業法人で雇用型研修を受けている。

1

就農相談までの背景

徳島県出身であり、県内の学校を卒業後、大阪府で電気工事士として働いていたが、祖母の農業を手伝った経験から、いつか徳島県に帰ってきて、農業を仕事にしたいとの思いがあった。農業を仕事にすることは家族から反対されていたが、時間をかけて思いを伝えていく中で、家族も賛成してくれるようになったため、ホームページで知った「大阪府農業経営・就農支援センター」に相談した。

2

相談内容

祖母が阿波市でミニトマトやナス、レタス等を栽培し、JAに出荷していたので、その経営を引き継いで自営就農したい。しかし、農業の経験が少なかったため、ミニトマト等の栽培技術を習得したい。

3

支援内容

●関係機関との連携による取組

相談者は住居のあった大阪府農業経営・就農支援センターと、就農希望地である阿波市役所に就農相談をしたところ、「徳島県農業経営・就農支援センター」を紹介された。

●研修機関（農業法人）の紹介・支援

相談者は阿波市での自営就農を希望していたため、徳島県農業経営・就農支援センターが阿波市内でミニトマト等を生産している（株）INITIUMを紹介した。「とくしま就農スタート研修事業」と「雇用就農資金」を活用し、雇用型研修を実施することとなり、就農定着まで支援を継続する。



（左）指導者の米田博紀氏、（右）原時人氏



（左）株式会社INITIUM 代表取締役 井口賀夫氏、（右）原時人氏

今後の意気込み

現在は、ミニトマトの収穫・誘引・葉かき作業の研修を受けており、スピードを改善し、効率を上げていくことが必要だと考えています。

祖母の農業経営を引き継いで、いずれは規模拡大するとともに、地域に根ざした農業経営をしていきたいと考えています。

専属スタッフ所感

相談者から聞いた「人と人の距離が近い中で、生活をしていきたい」との言葉が印象に残っています。農業は農地に働きかけて生計を立てていくため、土地と地域に根ざすことが必然的に求められます。このことから、相談者には自営就農の適性があると感じました。

転職やUターンで自営就農を検討される相談者は多いです。その場合は、まず家族と話し合ってもらい、就農への理解と協力を取り付けることが重要になります。



西浦氏（右）と森田氏

概要

◆氏名・所在地

西浦 万理・森田 皆子 香川県木田郡三木町

◆就農年

令和5年4月

◆経営規模

イチゴ 0.17ha

◆従業員数

パート・アルバイト 9名

◆事業内容

イチゴの高設栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

西浦氏は、前職で責任ある仕事を任され充実した日々を送っていたが、働き終わりの毎日に疑問が生じ、「30歳になったら心の底からやってみたい仕事に就く。」という目標を立てていた。

同僚で実家が兼業農家の森田氏からの提案や、テレビを見て訪問したイチゴ農家と話をすることで、やってみたい仕事がいちご栽培をする農業経営になった。そのため、新規就農の方法についてネットで調べたところ、「香川県農業経営・就農支援センター」に相談窓口があることを知った。

2

相談内容

一緒に農業経営を行う予定の森田氏の出身県にあるイチゴ栽培をしている農業者の下で研修を行い、当初はその県内での就農を検討していたが、理想とする農地が見つからず、就農地を近隣県に広げて探したい。

しかしながら、香川県はこれまで縁がない地域であるため、就農に向けて具体的にどう進めていけばよいかを相談したい。

3

支援内容

●就農候補地提案や就農に向けての相談対応

就農専属スタッフがWEB相談により対応を行った。西浦氏と森田氏はイチゴ栽培で就農する決意が明確であり、その条件に適した自然環境や経営ビジョンに合った産地として、三木町での就農を提案した。電話対応を中心に月1回程度、ちょっとした相談から進捗状況の確認まで、情報交換を行いながら就農に向けての準備を進めた。

●研修先の紹介

香川県では、栽培技術の指導や就農に向けての助言等を行う農業者を「新規就農者の里親」として登録しており、就農希望地に近く、移住就農希望者を受け入れた経験があり、イチゴ経営を行う上で適切な指導が行える里親を研修先として紹介した。



就農専属スタッフによるWEB相談の様子

●就農地の決定

農地中間管理機構を通じた農地貸借等を紹介したことから、西浦氏と森田氏は現地で農地集積専門員に相談しつつ、地域のイチゴ農家等様々な方と交流を深めていった。その中で、理想とする農地の候補が見つかったため、農地貸借の契約を結び就農地を決定した。

●関係機関との連携による取組

栽培施設の導入において、補助事業の対応は普及指導センターが、融資や詳細な事業計画の対応は伴走機関である株式会社日本政策金融公庫高松支店が中心となって実施し、施設栽培での就農で特に懸念材料となる資金面の課題解決に向けて支援した。



研修先の有限会社SSK 佐々木社長とともに

今後の意気込み

愛情を込めて育てたイチゴを多くの方に召し上がっていただきたいので、系統出荷のみならず、農園での直接販売もおこなっています。SNSでは、栽培の様子や農園の雰囲気や情報を発信しているので、私たち自身や農業のことをもっと知っていただきたいと思います。

安定した経営が地域の雇用創出に繋がると信じ、地元の方に受け入れてよかったと思っていただけるように、イチゴづくりに邁進します。

専属スタッフ所感

相談を受けた時期がコロナ禍だったため、WEBや電話での対応が主でしたが、イチゴ生産現場への訪問など就農専属スタッフからの助言をきちんと実行し、訪問先からつながった様々な人とも積極的に交流して人脈を広げていました。見ず知らずの土地で、高額な初期投資を要する施設園芸での就農を成し遂げたのは、お二人の強い思いと行動力によるものと感じています。

地域のけん引役となる担い手として活躍していただけるように、経営発展に向けた支援を続けていきます。

遊休農地を解消して経営規模の拡大を目指す

その他（研修）



崎山祐介氏

概要

◆氏名・所在地

崎山 祐介 愛媛県松山市

◆研修開始年

令和5年6月

◆研修内容

柑橘（いよかん、せとか、カラマンダリン等）やアボカド等の栽培技術と農業経営に関する知識の習得に取り組む。

1

就農相談までの背景

前職では福祉関係の仕事に携わってきたが、父親が病気で体調を崩して、経営規模を縮小したため、荒れた園地を目の当たりにした時に、父の園地の維持・再生をできたらと思い、本格的に就農を考えるようになった。

基本的な農作業が何も分からないため、就農について相談できるところを調べたところ、「愛媛県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を知った。

2

相談内容

幼い頃から収穫作業は手伝っていたが、一から農業を始めるには、自分自身の知識の無さを痛感し、どうしたら就農できるかをネット等を活用して情報を集め始めた。

農地はあるものの、農業の知識がほとんどなかったので、「技術習得をするために、どうしたらいいか」、「研修を行っている機関はないか」について相談した。

3

支援内容

●研修機関等の紹介

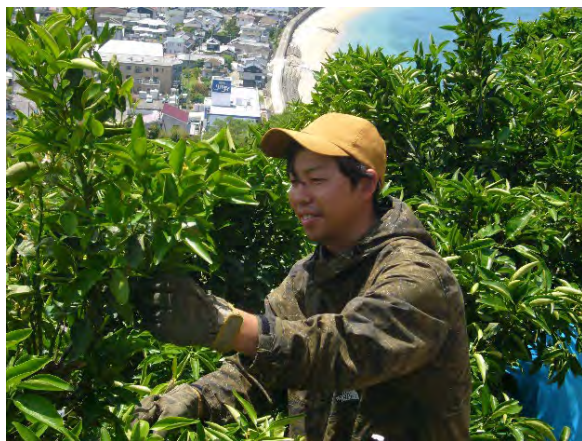
相談者は、福祉事業所で勤務している時に、働きながら研修を受けることができるところを探していたため、農業大学校や父親の農地がある地域を所轄するＪＡの新規就農研修センターの研修情報を提供した。

あわせて、相談者の同意の下、就農専属スタッフから研修先の候補となるＪＡえひめ中央新規就農研修センターへ情報共有した。

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携しているＪＡえひめ中央において、柑橘における実践的な農業技術や流通・マーケティング等の経営に関する基礎知識のほか、遊休農地解消に必要な重機の使用法や農業機械のメンテナンス、ハウスの設置・解体、最新技術の情報収集等の、農業経営者として自立するためのカリキュラムや優良農家の下での研修を受講した。

また、就農後の規模拡大に向けて、就農候補地区の農業者や行政機関と連携し、就農に向けた農地探しに取り組んだ。



ＪＡで研修を受ける様子



同期の研修生と研修園地（中央：崎山氏）

今後の意気込み

支援センターと研修先のＪＡが事前に連携していたので、スムーズに研修機関が決まりました。

研修は実践的で、就農してすぐに役に立つ内容です。また、同期の研修生も多く、就農後も相談できる仲間となりました。

就農後は、父親の園地に就農しますが、遊休農地を解消するとともに、経営が安定したら、近隣の遊休農地を再生し、経営規模を拡大したいと考えています。

専属スタッフ所感

近年、就農相談に来る多くの方が、将来（３～５年後）の就農に向けた情報収集段階で、就農候補地や栽培品目からの相談が多くなっています。

相談者は、父親の農地があり、栽培品目が明確で、就農意欲が高かったため、就農後のビジョンを明確に持って、熱心に研修に取り組まれています。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



ナスの収穫を行う谷田氏

概要

◆氏名・所在地

谷田 哲 高知県本山町

◆研修開始年

令和5年12月

◆研修内容

水稻とナスでの就農に向けて、先進農家の下で研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

本山町出身で高校では農業コースに在学するなど以前から農業に興味を持っていた。就職に伴い、本山町を離れたものの、いずれは地元に戻りたいと考える中で、豊かな自然を活かし、地域を盛り上げたいと就農を本格的に考えるようになった。

高知県新規就農相談センターへ令和3年4月に相談した際に、一定の準備資金がないと就農が難しいことが分かり、既に準備はしていたものの、2年かけてより十分な資金を用意し、令和5年4月に「高知県農業経営・就農支援センター」へ再度相談をした。

2

相談内容

農業をしたいという漠然な思いはあったので、支援制度や就農の流れを知るためにネットを活用して情報を集め始めた。

しかし、制度の仕組みなどを深くは理解できなかったため、専門的な機関への相談が必要だと感じた。

より具体的な営農までの計画や資金面について相談したい。

3

支援内容

●農地利用や資金面の相談対応

就農希望地は決まっているものの、栽培品目は決まっていないなど、就農までの具体的な計画は作成できていなかったため、産地で推進している品目や研修制度の紹介、農業を始める上で必要な情報の提供を就農専属スタッフが行った。

●研修機関等の紹介

就農希望地が本山町で決まっていたため、同町の農政担当につなぎ、町・J A・普及指導センター等の関係機関で構成される本山町担い手育成総合支援協議会との面談を通じ、水稻とナスでの就農を目指すことに決まった。栽培品目が決まったので、県立の農業研修施設である農業担い手育成センターを紹介した。

●関係機関との連携による取組

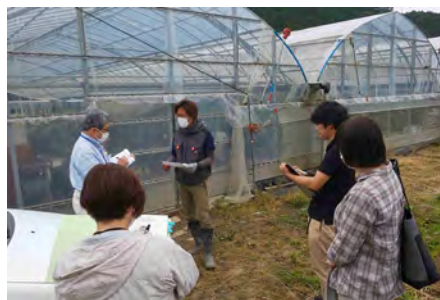
農業担い手育成センターで栽培や農業経営に関する基礎研修を経た後、地元の先進農家の下で、農業経営者としての自立に向け、経営ノウハウや栽培技術の習得を図るなど、日々実践研修に取り組んでいる。

●就農地の決定

就農希望地は本山町で決まっており、研修を受けながら、並行して就農するための農地や空きハウスなどを関係機関の協力を得ながら探している。



本山町の産地提案書



関係機関との現状確認の様子

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行って何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

窓口で受けたアドバイスを参考に町へ相談に行ったことで研修受入が円滑に進みました。しっかりと研修を積み、自営就農を目指していきたいと考えています。

専属スタッフ所感

就農相談に来る方の多くが資金不足の課題を抱えています。1度目の就農相談時、相談者は本山町が示す就農に向けた準備資金を準備していましたが、就農をより円滑なものとするため、2年かけて一層の資金を準備されました。令和5年に再度就農相談に訪れた際は、就農に対する強い意欲を感じました。

今後の研修にも意欲的に取り組まれることが期待され、将来は地域の担い手となっていただけるように、引き続きフォローしていきます。